



今回は、授業改善に関わる校内職員研修会(化学実験)の報告です。

◇ 「他教科に学ぶ」「生徒の立場で考える」をテーマに、化学実験に参加！

日時：平成30年7月6日(日) 9:00 ~ 9:50

場所：本校化学実験室 参加者：職員35名、教育実習生2名

担当：遠藤勇太(教育実習生、名古屋大学農学部4年生)

指導：田中宏季(本校理科教諭、化学)

テーマ：2年生生理系クラスを対象とした化学基礎実験。

目標：化学変化における反応物と生成物の量的関係を調べ、それらの物質量の比から、化学反応式の係数や化学反応の過不足量について学ぶ。

◇ 授業改善と本校SGH課題研究の関係、及び研修当日の様子

課題発見・解決力、コミュニケーション力、表現力、語学力の育成をめざす授業改善を全職員がめざす。授業で習得した力を統合・駆使し、SGH課題解決型研究や実践的活動の場で活かす。

本校SGH活動の基本は、全職員による授業改善によってかたちづくられます。授業改善を含むSGH活動の成果は、個々の生徒の進路実現においても発揮されつつあります(平成29年度SGH情報63号参照)。

授業改善のための具体的プログラムとしては、

- (1) 教科ごとの研究授業、
- (2) 年2回の授業公開、
- (3) 個々の教員の授業改善実践、
- (4) 校内研修会、
- (5) 生徒による授業改善アンケートなどの取り組みがあります。今回は(4)を実施しました。

通常の職員研修会とは異なり、実習生の担当する化学実験に、様々な教科の教員が生徒役として参加するというかたちを取りました。

「授業を受ける生徒の立場に立って考える」「他教科の教員のスキルや工夫に学ぶ」「教師としての視野を広げる」といった点で意義のある試みであったといえます。

今回の授業の評価基準は、(1)実験への参加姿勢(意欲・関心・態度)、(2)「量的関係」の把握(技能)、(3)「物質量」の算出(知識・理解、思考・判断・表現)、(4)「各物質の濃度決定」(思考・判断・表現)です。他教科であるがゆえ難しさはありましたが、担当の実習生や同僚の理科教諭のアドバイスを受けながら、参加した教員は教科の枠を超えて意欲的に取り組みました(右写真参照)。

「他教科に学ぶ」「生徒の立場で考える」といった視座は、今後の授業改善でも活かしていきます。

